

常任委員会

市の事務に関する調査及び議案・請願等の審査を行うための常設の委員会です。

本会議で付託された条例制定や決算認定、補正予算などの案件について、3つの常任委員会で審査をし、議案については全て原案どおり可決・認定し、請願1件は継続審査に、陳情1件は採択としました。

審査の概要と、主な質疑（本定例会最終日の委員長報告から抜粋）については、次のとおりです。

■ 総務文教常任委員会

条例の制定3件、決算認定5件、補正予算2件、陳情1件、その他3件を審査しました。また、「権現荘の経営状況について」の所管事項調査を行っています。

権現荘の指定管理者制度移行について （所管事項調査）

質疑 平成29年度からの指定管理者制度移行について、株式会社能生町観光物産センターと特命随意契約※に向けて協議中ということであるが、指定管理者の選定理由と、指定管理料の考え方はどうか。

答弁 地元に密着した企業であり、地域の中核的施設の運営実績から選定した。指定管理料は払わない方針で、利益の2分の1を頂く案で交渉したい。赤字の場合は払わないという考えである。

フォッサマグナミュージアムについて （一般会計歳入歳出決算認定）

質疑 今後の維持管理を考えた場合、料金を検討するべきではないか。

答弁 フォッサマグナミュージアムの展示は、市立の施設でありながら県立並みの規模であり、ジオパークを通じた教育を重視している。博物館は、収益を求める施設ではなく、入館料も他の公立博物館と同程度である。

■ 建設産業常任委員会

条例の制定2件、決算認定6件、補正予算2件、その他7件を審査しました。また、補正予算の議案審査のため、8月に発生した台風9号の被害状況の現地調査を行っています。（表紙写真参照）

インバウンド推進事業 （一般会計歳入歳出決算認定）

質疑 白馬糸魚川お食事バス運行事業補助は派手で目立ったが、収益性の面では継続できない事業と考えるが、担当課としてはインバウンド事業全体をどう考えているのか。

答弁 昨年度は青年会議所が中心になってシーフードシャトルバスを実施した。

白馬に1シーズンで7万人泊以上の宿泊がある。50分で来るお客を何とかして取っていききたい。それ以外にも教育旅行を含める中で糸魚川に多くのお客さんに来てもらえるような仕組みを、民と官が一体になってやっていきたい。

移動販売支援事業について （一般会計歳入歳出決算認定）

質疑 人口減少、高齢者対策の活動と高く評価しているが、事業の実態と評価、成果はどうか。

答弁 月2万円の補助を受けても赤字となっている実績を受けて、28年度は補助要件を見直した。

お年寄りは移動販売車を待っており、お年寄りが抱える悩みをお店の方が聞いて福祉事務所に伝えている実態もあるので、福祉部門と連携して取り組んでいるということが1つの効果だと思っている。糸魚川市は、西浜七谷と言われる谷を抱える地域であるので、糸魚川が抱える中山間地の集落、生活実態をよく調べて、制度の拡大を考えていきたい。

■ 市民厚生常任委員会

決算認定5件、補正予算3件、請願1件を審査しました。また、「次期ごみ処理施設の整備に係る事業者選定委員会の設置について」、「一般廃棄物最終処分場及び産業廃棄物最終処分場の適正化事業の経過と再発防止対策（案）について」、「介護予防・日常生活支援総合事業の基準緩和型サービスの新設について」及び「能生地域・地域活動支援センターの施設整備について」の所管事項調査を行っています。

固定資産税の免除について （一般会計歳入歳出決算認定）

質疑 旧姫川病院跡地の個人地主の救済という部分で、固定資産税を免除するという考えはどうか。また、旧姫川病院は特定危険空き家と考えていないか。

答弁 税の公平性からして、現状の制度の中では旧姫川病院の敷地に対して課税免除をすることはできない。また、空き家について、特に人の生命、財産に関わるようなものは早めに対応していかなければいけないと考えている。旧姫川病院も特定危険空き家の候補であり、空き家等対策協議会で検討していきたい。



※特命随意契約…国や地方公共団体が競争入札を行わず、特定の事業者を指定して契約を締結する方式。